《子宮頸がんの原因ヒトパピローマウイルス（HPV）》

子宮の入り口である頚部にできるがんを「子宮頸がん」といいます。30～40歳代に多く発生しますが、近年は20代の若年層で増加傾向にあります。

子宮頸がんの原因は、性交渉により感染するヒトパピローマウイルス（HPV）であることが明らかになっています。HPVには多くの種類がありますが、このうち子宮頸がんの発症に関係するのは15種類（発がん性HPV）ほどで、すべての女性の約80％が一度は感染するという報告があります。しかし、発がん性HPVに感染してもほとんどの場合、自然に排除されますが、排除されずに長期に感染が続くと、がんが発生すると考えられています。

○子宮頸がん予防ワクチン

昨年から接種可能となったワクチンは、発がん性HPVのうち2種類の感染による子宮頸がん、その前の前がん病変に対して予防効果があるとされていますが、効能・効果に関する注意点として次の4つが示されています。

①2種類以外の発がん性HPV感染に起因する子宮頸がん、その前の前がん病変に対する効果が確認されていない（この2種類のHPVが子宮頸がんの原因に占める割合は、日本では50～70％）

②すでに今、感染しているHPVを排除したり、子宮前がん病変の進行を予防する効果は期待できない

③定期的な子宮頸がん検診の代わりとなるものではないため、接種に加え、子宮頸がん検診を受けたり、性感染症の予防に注意することが重要である。

④ワクチンの予防効果の持続期間は確立していない。

○子宮頸がん検診は重要

子宮頸がん予防ワクチンは治療薬ではありませんし、がん検診の代わりとなるものではありません。子宮頸がんを防ぐには、ワクチンの接種だけではなく、定期的に子宮頸がん検診を受け、前がん病変のうちに見つけることが大切です。年に1回は子宮がん検診を受けましょう。

笠間のがんばる企業紹介㉓

市内で活躍する企業を支援するために結成された「笠間市がんばる企業応援連絡会」。このコーナーでは、連絡会に加入している企業の皆さんを紹介します。

サンエツ工業㈱　茨城工場

今回紹介するのは、東京都葛飾区に本社を置くサンエツ工業㈱です。押辺地区の茨城工場で、田中三郎代表取締役にお話を伺いました。

―笠間市に進出した経緯をお聞かせください。

「東京の工場が手狭になり移転先を探していたところ、知り合いから紹介され、平成5年に笠間市へ移転し、2年前に現在の場所に自社工場を完成させました。」

―どのようなものを生産しているのですか？

「主に医療機器や通信機器のプラスチック部品を生産しています。プラスチック成形には、金型に樹脂を流し込む方法と、樹脂の塊を削る方法の2種類があり、当社はどちらにも対応できます。」

―御社が自信を持っていることを教えてください。

「設計・試作の開発段階から、量産・組み立ての生産段階に至るまで、一貫してお受けできるのが技術面の強みです。また、社員が失敗できる環境づくりを常に心がけています。」

―失敗ですか？

「はい。ものづくりの世界では、失敗は必要不可欠なものです。失敗することで新たな課題が見つかり、会社の成長に繋がります。」

―なるほど。

「社員が高い目標を持ってチャレンジし、失敗してしまっても隠さずみんなで対策を考える。そんな信頼感を大切にしています。」

―今後の目標を教えてください。

「国内の需要が頭打ちの中、限られた仕事を奪い合うのではなく、新たな価値を提案して市場を開拓していきたいと考えています。また、将来は自社製品の開発が夢であり、実現したいと思います。」

◀工場外観

工場内部▶

「サンエツ工業㈱　茨城工場」
従業員数：43人（パート含む）
※文責▽笠間市役所企業誘致推進室（内線228）